



地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、関西地域ブロックおよび中国・四国地域ブロックの活動についてご紹介いたします。



関西地域ブロックから

関西地域ブロック担当理事
所めぐみ(関西大学)

関西地域ブロックは、年次大会(例年2月か3月)の開催、若手研究者・院生情報交換会の開催(年に3回程度)、紀要『関西社会福祉研究』(年1回)の発行を主な研究活動として活動しています。年次大会は関西地域ブロックと、1950年に設立された関西社会福祉学会の年次大会の位置づけとして、毎年、関西の各大学の持ち回りで開催されています。若手研究者・院生情報交換会は、これまでに46回の開催と回を重ねています。各回の企画は、理事会メンバーを含む会員が担っています。このうち年に1回は、若手研究者・院生会員が企画を担当しています。以前は関西ブロック内の大学院に持ち回りのこの1回の企画を担っていただいていたのですが、最近、留学生枠として、(元)留学生の若手研究者の方々による企画を年に1回実施することが定着しています。若手からベテランまで多様な会員の方々のご協力により活動が進められています。

さて、昨年度は2月22日に同志社大学で、この年度では3回目となる若手研究者・院生情報交換会の第47回を、また3月1日には神戸市の頌栄短期大学で「ソーシャルワークと保育・子育て支援～専門性・業務・担い手～」をテーマに、年次大会と総会の実施を予定していました。それぞれの企画者、実行委員会、またシンポジウムの登壇者、自由研究発表の発表者のみなさまには準備を整えて頂いており、会員からは参加の申し込みを頂いておりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大下、大変残念ながら中止と相成りました。

年度が変わりまして、新体制となりました。理事会、紀要編集委員会や各種の打ち合わせ等はWEB会議の形で進めています。コロナはまだ私たちとともにあります。理事会で検討し、学会としての活動は止めることなく、ただ無理はしないようにコロナとその影響を鑑みながら進めています。

紀要『関西社会福祉研究』は、8月末に論文投稿が締め切られ、年度末の発行に向けて、査読、編集委員会企画が進行中です。

若手研究者・院生情報交換会は、中止となった第47回をあらためて開催することとなりました。

「若手研究者の研究と教育の両立、キャリア形成の意味」をテーマに、昨年度予定していたすべての登壇者が登壇されます。12月5日にオンラインにて開催予定です。

また日本社会福祉学会が地域ブロックと共催しているフォーラムを、今年度は関西地域ブロックが地域ブロックの担当として、準備を進めています。ブロックの年次大会（自由研究発表）と総会も、フォーラムと同日開催の計画をしています。詳細が確定次第、日本社会福祉学会のホームページにご案内を掲載予定です。ぜひご参加ください。

ホームページ以外にも日本社会福祉学会にメールアドレスを登録されかつメール配信を承諾されているブロック会員には、関西ブロックからのお知らせを随時配信させていただいております。もしまだアドレスとメール配信承諾の登録をされていない会員で、配信を希望される場合は、（ブロックではなく）日本社会福祉学会の事務局にお問い合わせ下さい。

今後とも会員各位のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

中国・四国地域ブロックから

中国・四国地域ブロック担当理事
山本 浩史（新見公立大学）

中国・四国地域ブロックは、西から山口県、広島県、岡山県、瀬戸内海を挟んで愛媛県、香川県、徳島県、太平洋側となる高知県、そして、中国山地から日本海側となる鳥取県、島根県と広範囲にわたるブロックです。このことから、ここ数年、ブロック委員会は岡山県で開催しています。

ブロックでの取り組みですが、大きくは研究成果の発表の場となるブロック大会の開催及び機関誌の発刊、そして、ブロック会報の発刊が主な事業です。その中でも特に2015年度からは、特定研究課題を設定し、これに取り組む活動もしています。その流れですが、ブロック委員会で中国・四国地方において、福祉課題となっているテーマを設定し（以下、特定課題）、そのキックオフとして、特定課題に関心のあるブロック内の会員を集め研究会を開き、その年、あるいは、翌年のブロック大会において特別分科会を設け、さらなる研究発表の場としています。場合によれば基調講演やシンポジウムとして取り組むこともあります。そして、その研究が深まれば、成果をまとめる目的で機関誌とは別に論文集を発刊することもあります。前回は「中国・四国地方の福祉課題・福祉実践研究」として取り組み、『中国・四国発!地域共生社会づくりの課題と展望』中国・四国社会福祉研究論文集を発刊いたしました（在庫がありますので、興味・関心のある方は、ご注文ください。@2,000円）。現在は、2019年度に課題設定をした「中国四国地方での福祉人材確保問題 日本人の就労状況と外国人受入れの課題」をテーマに岡崎仁史氏（広島国際大学名誉教授）を中心にその研究を進めています。今年7月に開催予定であった第52回岡山大会においても特別分科会を設定し、研究を深めていくはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の罹患拡大により、大会が次年度への延期となり、頓挫しているところです。コロナは様々な形で影響していると言え、特定研究課題にある外国人介護労働者にも大きな影響を与えていると思われます。先日、とある特別養護老人ホームに行くこ

とがあり、施設長と話をしたのですが、受け入れ予定であった、いわゆる外国人介護員採用予定者がコロナの影響により日本に入国できずにいると話されていました。このコロナ禍がいつまで続くのかわかりませんが、コロナによる影響についても見ていく必要があるのかもしれない。

どちらにしても、このコロナにより、ブロック活動も停滞を余儀なくされている状況ですが、コロナが収束し、正常な状態による活動ができるようになればと願うばかりです。しかし、一方で、今回のような事態が発生したとしても、別なチャンネルで事業を推進していくことも求められているのだと思います。まだ社会はコロナ禍の中ですが、非常時のブロック運営について、今後の検討課題にしたいと思っています。